

令和5年度 栃木労働局 ベストプラクティス企業訪問



2024年問題と どう向き合うか

2024年4月から、自動車運転者や建設業に対して時間外労働の上限規制の適用が始まります。

過労死等防止啓発月間である11月に、労働時間の見直しも含め、「2024年問題」として社会の関心を集めるこの課題に、積極的に取り組む企業を栃木労働局長が訪問し、意見交換を行いました。

株式会社ウナン

代表取締役 半田 臣一



働き方改革は好機、
取引先とも協力して、質の高い
運輸サービスの実現を

トヨタウッドユーホーム株式会社
代表取締役社長 石川 均

取引先も含めた良好な就労
環境を実現をこそ、
質の高いサービスができる



栃木労働局長
奥村 英輝



企業間の良好な関係を構築、
活用することが2024年問題
への対応のカギ

詳細な内容は次ページから

厚生労働省

栃木労働局

各社の取組について紹介いただきました

株式会社ウナン

道路貨物 運送業

「ホワイト物流」推進運動に賛同、提案型の物流サービスを提供し、取引先等と協力して物流の改善を図っている。

- 以前から労働環境改善や時間外労働短縮が必要だと考えていました。2019年に働き方改革関連法の施行が始まり、国が方針を示したことから、これを好機だと思い社内改革を始めました。
- 労働時間を長くしないためには、どうしても「車を止める（走る量を減らす）」という決断が必要です。そしてこれによって給料を減らさないことも必要です。一時的に営業利益はダウンしたのですが、当社では手当を増やすことで給料を維持しました。
- このため、取引先との協力は必要です。取引先としっかり協議を行い、値上交渉にも協力してもらいました。トヨタウッドユーホームさんからは、なんでもっと早く相談に来ないのか、と言われたくらいです。
- 業界全体で人材不足が生じていますが、労働環境を改善することで、人材不足にも対応できます。



トヨタウッドユーホーム株式会社

建 工 事 業

栃木県を中心に戸建住宅等の建築・販売を行う。ウナンの取引先として良好な取引環境を築き、自らも建設業者として労働環境改善に取り組む。

- 労働環境の改善は自社だけで完結するものではありません。取引先も含めて、これを行っていくことで、全体として質の高いサービスが提供できるようになり、自社の利益にもつながると考えています。
- 当社は建物の構造躯体を工場パネル化して現場に運んでいますが、取引先であるウナンさんのスタッフに工場に常駐していただき、現場への配送を採配をしていただくことで、効率的な配送ができるようになっています。ウナンさんとは、定期的に意見交換を行っており、今後も協力して仕事の改善を考えていきたいと思っています。
- 当社は建設業者として、自らが時間外労働の削減を考えていく必要がある立場でもあります。労働時間の削減、仕事の量や時間の平準化のため、クラウドを活用した施工管理や、作業の内製化により現場施工時間の短縮等を行っています。



各社の取組について意見交換を行いました



ウナンさんでは労働時間の削減の取組みの効果をどのくらい得られたのでしょうか。

かつては時間外労働が月に100時間くらいありましたが、取組を始めて1か月ほどで月60時間くらい、3か月ほどで月45時間くらいになりました。一度こうした働き方に慣れてしまえば、以後はそれを超えることはあまりなく、現在は45時間以内に収まっています。



人材の確保や定着という観点からも、働き方の見直しは効果があると感じますか。

運送業界には、労働時間が長く賃金が低いというイメージがあります。これではこの業界で働きたいと思う人は増えない。当社ではドライブレコーダーやデジタルタコグラフでの管理を徹底し、配車計画や運賃計算をきちんと行っていますが、こうした管理に基づき、労働時間などの労働環境を良くすることが人材確保には重要で、ひいてはこれが物流を守ることにもつながります。



荷主や取引先と道路貨物運送業者の関係で重要なポイントは何だと思えますか。

労働時間の短縮や賃上げの問題なども含めて、荷主や取引先の方と交渉していくことが重要です。これが物流サービスを維持するために必要なことであると訴え、理解を得るようにしています。



トヨタウッドユーホームさんのように個人住宅が配送先だと、配送先の場所や規模が様々になると思いますが、計画的な運行は難しくないのででしょうか。

事前に発注情報をいただくことで、適切な運行計画を立てることができます。こちらも配送場所に応じた車両を用意するなどの工夫もできます。トヨタウッドユーホームさんとはこうした連携ができる関係を築けており、荷降ろしの時間も短くできています。



各社の取組について意見交換を行いました



トヨタウッドユーホームさんが作業の見直しの工夫をされた契機は何でしょうか。

以前は、木造軸組の在来工法が主でしたが、課題として工期や品質が異なることで現場への負荷が大きいことがありました。そこで約40年前にツーバイフォー工法に切り替えるとともに、構造躯体部を工場パネル化したり、そのパネルに現場作業の一部を取り込んだりすることで、物流効率や現場の施工効率に寄与することができました。昨今ではクラウドによる施工管理も効果的であり、無駄な移動時間をなくすなど、施工管理のコストを削減できました。



建設業界においては請負構造が基本だと思いますが、これによって苦勞する面などはないのでしょうか。

請負業者の方とのコミュニケーションが重要です。当社は戸建住宅を扱っている関係もあり、一棟に対し複数の請負業者の方と仕事することから、コミュニケーションロスがないよう細心の注意を払っています。



ウナンさんのスタッフを工場に常駐させていることによる効果は実感しますか。

日々打ち合わせをし、年間のスケジュールなども把握いただくことで効率的な仕事ができます。現場への配送だけでなく、配送の効率を上げるためにどうすればいいのか、安全な運送ができるのかなど、双方で話し合いながら一体となって業務を改善することができていると感じています。



<意見交換を終えて>

時間外労働の削減のためには、取引先等企業間での連携が重要であることを改めて実感しました。

また両社の「労働環境を良くすることが人材確保や、物流サービスの確保に必要」「取引先も含めて、労働環境の改善を行っていくことが重要」という姿勢は、ぜひ他社においても参考にさせていただきたいと思います。